

岐阜で未来の教育を体験する

スーパーハイスクールセッション

主催 岐阜県教育委員会学校支援課
共催 岐阜大学地域科学部
日時 時間各日10:00~16:00
6月16日(日) 趣旨説明等
7月7日(日) 県職員への質疑応答
テレビ会議システム活用セッション
7月29日(月)~8月1日(木)
8月21日(火) プレゼンテーション

場所 岐阜大学構内 および
県教委テレビ会議システム

エンリッチコアメンバー参加者
3年生(ワークショップ参加・発表者)
松本優奈、高野優衣
西村彩希、山田茉弥

見学者 2年生: 藤原祈従、村瀬美乃里
1年生: 大島未夢、坪川凜香

「地域活動として行なっていることを他の高校生に説明できること」という条件があったため、昨年度までエンリッチコアメンバーとして、学校外でkanisuki若者プロジェクトで活躍する3年生をメインメンバーに、そして来年度以降の活動も視野に入れ4名の下級生も見学に加わった。



大学生メンターから指導を受けながら班の方向性を探る初日の様子

しかし、これまで数多くの場数を踏んだ3年生は本領を発揮し、中には話し合いをリードし、周りを引っ張る生徒もあり、それぞれの班で自分の持ち味を発揮する姿が見られ頼もしく感じ

ランチを挟み、グループで「どうしたら岐阜が活性化するか」ブレインストーミングをすることに。ここは可見高生の腕のみせどころ。中にはグループの話し合いを牽引する生徒もいた。

各グループには話し合いをモデレート・アドバイスしてくれる大学生メンターが配属されたため、話し合いや機材の使用で困った時はこのメンターが支えてくれたため、高校生達はリラックスして話し合いに集中することができた。話し合いを進めるに従って各グループごとの大きな活性化策の方向性を決め、初日は終えることになる。毎回、帰りのバスでは「作戦会議」が行われた。初日の帰途では、最終ゴールが「岐阜県活性化のための事業提案」と分かり、各グループの状況を生アしつ、各グループとも最優秀賞を目指すライバルとしてお互い頑張ろうと励ましあった。見学者グループも自分たちが参加するつもりで見えていたため、「来年は自分たちが参加したい」と意欲を高めた。



ブレインストーミングの様子。

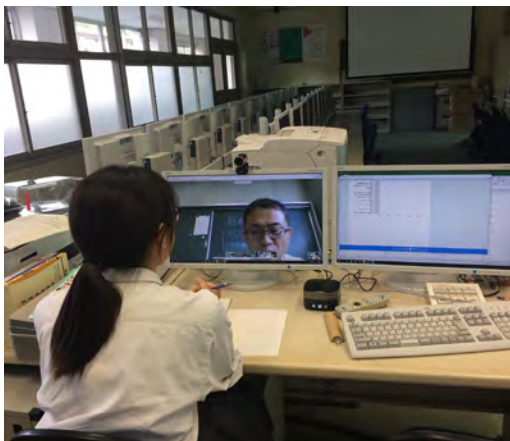
7月7日第2日目は本格的にグループでの話し合いが始まった。この日は岐阜県職員の各課職員に直接質問ができるわけだが、「何を聞こうか」と当日調整をする班もあり、準備の差がたようである。また、かなり細かいことまで質問する生徒も見られたが、しかし、そこは百戦錬磨の岐阜県職員で高校生が考えることは想定済み・対策済みのことも多く「岐阜県の公務員すごい」と感想を漏らす生徒もいた。こうした対話を通して自分たちの課題意識を形にしていた。



1日を通して、方向性がハッキリしたグループもあれば「まだどうしようか先が見えませんか」というグループもあり、話し合いやアクティブラーニングに慣れている高校からきた生徒と慣れていない生徒が集まったグループでは差があるようで生徒も苦労しているようだった。

スーパーハイスクールセッション テレビ会議システムへ発表会

7月29日・30日・31日・8月1日
岐阜県教育委員会学校支援課をハブとして本校コアメンバーと他校とつなぎ、テレビ会議システム上でプレゼンテーションの内容についての検討、及び、追加の調査やアンケートについて相談した。



思ったよりも機材は安定しておりスムーズにやり取りができた。実際にどこかに集まるのは大変なことだが、テレビ会議システムを活用すればそのストレスから解放される。文字通り、「未来の教育」を感じられた。
いくつかのチームはこの日までに「可児高校生徒全体にアンケートを実施したい」という声や、「女性進出支援に乗り出している自治体にアンケートをしたい」と、

具体的なアクションを起こし始めた。その影響が他のメンバーの刺激になっているのを見取ることができた。



美濃加茂市役所地域振興課にて美濃加茂市女性支援策施設 Re:Ola やしごと創生総合戦略 Caminho について話を伺う。

8月21日SSS企画審査会当日を迎える。午前中は発表前の調整、スライドの微調整そして午後には備えての練習を行った。生徒はLineで連絡を取り合い、Power Pointを駆使してスライドを完成させていった。発表原稿の作成も重要であるが、本来は「質疑応答」で質問を予測して準備ができることより良かった。本人たちは「そんな余裕はなかった(帰りの車中)」と言うように、事前にその準備をしておく必要があった。次年度への課題としたい。

最終日、可児高校生が関わるグループはそれぞれ「関ヶ原を観光地としてアピールして観光産業を活性化」、「岐阜柳ヶ瀬商店街で行われるサンデービルヂングマーケットをクローズアップ」、「岐阜県・美濃加茂市地域振興課の女性進出支援策を例に女性進出で活性化」の方向で話が進んでいた。残る1グループがあったわけであるが「当日までは内容は秘密」ということで、担当教員としても一切手助けすることなく準備を進めていた。

関ヶ原チームは複数校で「関ヶ原の観光地としての認知度を調査するアンケート」を実施し、問題点の特定や解決策の炙り出しを図った。サンデービルヂングチームは現地に足を運び、見やすくわかりやすいスライド作成に力を入れた。女性進出チームは美濃加茂市産業振興課に出向き、直接担当された方や課長に話を伺い、同時に岐阜県の取り組みについても市町村の立場から話を伺うことができた。発表当日に向けて「なんとなく準備して、発表する」のではなく主体的に課題を特定し、解決の方策を自分たちなりに考えようとする姿はこれまでのエンリッチ活動や、日頃の学習の成果であると感じた。結果は、女性進出チームが優秀賞、そして最後までダークホースだった「婚活チーム」が審査員特別賞を受賞した。賞を逃したチームもポイントをついた良い発表であったと思う。

最終日の様子

